

三、丈餘の蘆、猛虎の巢

三十日烏蘭烏蘇ウランウスに入る。行程僅に七里餘但し是日經過の地、一帶の濕地に屬して、其の半途營盤莊子インパンチヨワンズに到る間、蘆葦茂生、丈餘の高さに延び、虎豹等の猛獸棲息するもの多く、其れより以西は榆樹疎生す。本道の南側約一里乃至三里の邊に、一連の榆樹垣狀を成せるは、瑪納斯、烏蘭烏蘇間の別路にて人家亦點在する如し。烏蘭烏蘇より天山に通ずる二日程の路上には、處々石炭露出すと。此地人家街上に二十戸附近に五十戸あり、又其北方一里内外の處に、東西一里半、南北一里弱の湖水ありと。地質は黄土細砂を交ゆるも、鹹分を含むこと少なきが故に、水理宜しきを得ば、恐らく全土好水田とならん。

猛獸の巢窟危險の難所、之を送り之を迎ふる其れ將た幾回なるを知らず。本日經過の地、亦其一にして、丈餘の葦蘆叢生して一望際なく、陰濕なる泥沼地と相俟て、腥氣悚然人を襲ふもの有り加ふるに猛獸の巢窟と稱へらるゝが故に時に一陣の陰風地を捲きて來れば猛虎嘯き、餓狼吼るが如く、幹動き葉戦ぐ邊、牙を鳴らし爪を磨ぐに似たり。